

★学校の教育目標	人権尊重の精神を基調に、心身共に健康で、たくましく生きる人間性豊かな児童を育成する。	★重点計画の概要	「平山小からだ健やかプロジェクト」 1設定理由 ○児童の体力低下傾向や運動する子としない子の二極化傾向を踏まえ、児童が運動や遊びをとおして体を動かす楽しさを実感したり、食や保健の内容を中心とした健康な生活を実践したりすることをとおして、健やかでたくましい子供を育成するために本プロジェクトを重点取組として設定する。 2内容 ①東京都教育委員会体育健康教育推進校、日野市教育委員会研究奨励校として、研究主題「たくましい子供の育成 ～体育・食育・健康保健を通して」を設定し、様々な具体策を講じ、2月に研究発表会を開催する。 ②児童が主体的に取り組む体育科授業、食に関する授業、健康保健に関する授業実践を推進する。 ③児童が体を動かす楽しさや大切さを実感するとともに、体力向上を実現するために様々な体育的活動を設定し、友達とともに運動する機会を創出する。 ④児童がアスリートとふれあい運動の楽しさを実感するとともに、保護者・地域と連携しながら健康な生活を実践する取組を推進する。
★目指す学校像（ビジョン）	○すすんで学び力（自ら問いをもち、仲間とともに学びひらやまっ子）【問題解決力】 ○ゆたかな心（“いのち”と真心を大切に、すすんで人の役に立つひらやまっ子）【人間関係形成力】 ○たくましい体（よく運動し前向きに挑戦するとともに、健康な生活を実践するひらやまっ子）【実践力】		
【目指す児童像】	平山小学校に関わる人々が、楽しく前向きに生きる力を育むとともに、一人一人を大切にできる魅力ある楽しい学校 (1) 児童が、できる楽しさ・分かる楽しさ・認められる楽しさを味わうとともに、自分と他者の多様な個性を認め合い尊重する (2) 保護者・地域住民の方々が学校を信頼・応援し、児童を安心して通学させ、自らも行動参画する (3) 教職員が、個性を生かし、専門性を伸ばし、チームとして協働する組織の中で挑戦し成長を実感するとともに、子供のよさを見つけ、褒め、活かす		
【目指す学校像】			
【目指す教師像】	個性を生かし、専門性を伸ばし、チームとして協働する組織の中で挑戦し成長を実感するとともに、子供のよさを見つけ、褒め、活かす		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	人の役に立ち、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育成する。	学級活動を工夫し、自分の成長を実感し、支え合い、高め合う仲間集団をつくらうとする態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学級活動ハンドブック」を活用し、意図的・計画的な学級活動の授業を実践する。</li> <li>児童がよりよい学校・学級生活実現のために生活目標を話し合い、全校朝会で発表する児童主体の「週リーダー活動」を実施する。</li> </ul>	92%	4 学級活動ハンドブックの内容をいかに学級活動授業を毎学期行った学級担任が100% 3 学級活動ハンドブックの内容をいかに学級活動授業を毎学期行った学級担任が85%以上 2 学級活動ハンドブックの内容をいかに学級活動授業を毎学期行った学級担任が70%以上 1 学級活動ハンドブックの内容をいかに学級活動授業を毎学期行った学級担任が70%未満	89%	4 アンケートで「学級会等でよりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と肯定的に答えた児童が90%以上 3 アンケートで「学級会等でよりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と肯定的に答えた児童が80%以上 2 アンケートで「学級会等でよりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と肯定的に答えた児童が70%以上 1 アンケートで「学級会等でよりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と肯定的に答えた児童が70%未満	「学級活動ハンドブック」や「週リーダー活動」は、年々成果が上がっており、有効と考える。ただ、全体の中で教員の評価が最も低いのが気になる。教員評価が低い要因が何らかの困難さであるなら、教員へのフォローもお願いしたい。	年度当初に学級会ハンドブックの取り扱いについて説明を行い、学級会を推進している教員が紙面による実践報告を行った成果もあり、教員の肯定的な評価は100%には届かなかったものの、一昨年度、昨年度に比べて上昇傾向にある。一方、「よい学級・学校にするために話し合うことができた。」と回答した児童が89%と、こちらも昨年度、昨年度より肯定的な意見が増えて上昇傾向にある。引き続き、発達段階に合わせて意図的・計画的な学級活動の授業を実践する。平山小の特色の一つである「週リーダー活動」は、児童が学校をよりよくしようとする意識を高め、そのための目標を考え、広報活動を行うなど、児童主体の学校作りが大いに繋がっていると考えられる。
	共生社会の一員として自分と他者の多様な個性を尊重し、一人一人を大切にできる態度を育成する。	一人一人の個性や特性、強みや弱みを互いに受け入れ成長できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の自己肯定感を高めるために、児童同士のよいところ見つけの活動や、教職員が児童のよさを見つけ、褒め、活かす指導を実践する。</li> <li>他者を大切にできる意識を高めるために、人権標語作成の活動等を実践する。</li> <li>学校いじめ防止基本方針に基づき、毎学期初めにいじめ防止に関する学級指導を実施するとともに、毎学期いじめ問題の早期発見のための「生活・ふれあいアンケート」や児童面談、年2回保護者面談を実施し相談できる環境を保障するとともに、毎月いじめ対策委員会を開催し、いじめ見逃しゼロを目指す。</li> </ul>	100%	4 児童のよさを見つけ、褒める指導を常に意識し実践できた教員が100% 3 児童のよさを見つけ、褒める指導を常に意識し実践できた教員が85%以上 2 児童のよさを見つけ、褒める指導を常に意識し実践できた教員が70%以上 1 児童のよさを見つけ、褒める指導を常に意識し実践できた教員が70%未満	94%	4 アンケートで「自分や友達を大切にすることができた」と肯定的に答えた児童が90%以上 3 アンケートで「自分や友達を大切にすることができた」と肯定的に答えた児童が80%以上 2 アンケートで「自分や友達を大切にすることができた」と肯定的に答えた児童が70%以上 1 アンケートで「自分や友達を大切にすることができた」と肯定的に答えた児童が70%未満	平山小では思いやりのある児童が多いと感じる。「いじめ見逃しゼロ」を目指し、地域も含めた関係者全員で情報共有の対策を続けていきたい。	毎学期初めのいじめ防止を図る学級指導の徹底やいじめ問題の早期発見のための「生活・ふれあいアンケート」における児童面談、年2回保護者面談の実施の成果が見られた。それらは、いじめ見逃しゼロを目指して全教職員が児童一人一人の個性、多様性を尊重しながら人権意識を高めようとして意識して行うこと、また児童も自分や友達を大切にしようとする思いをもっていることが評価からうかがえる。しかし、学校外でのトラブルなど大人の目が届かない場での児童への規範意識を高めることに関しては課題が多い。地域、家庭と情報共有連携をはかり、地域の一員としての行動の仕方、他者理解を高めることができるよう指導を継続していく必要がある。
みんなの多様な学びとあわせをつくる	自ら問いをもち仲間とともに追究し、できる楽しさ、分かる楽しさ、認められる楽しさを味わえるような学びを推進する。	児童一人一人の理解のしかたやペースに合った多様な学びと学び方を実現するために、個別最適な学び及び対話・協働的な学びを実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が「一人一人を大切にしたい学び合い」を実現する授業を実践する。</li> <li>各教員が学習者用及び教師用端末を学びの中で活用する授業を実践する。</li> </ul>	100%	4 単元を通して又は1時間の授業の中で「一人一人を大切にしたい学び合い」の授業を毎学期行った教員が100% 3 単元を通して又は1時間の授業の中で「一人一人を大切にしたい学び合い」の授業を毎学期行った教員が85%以上 2 単元を通して又は1時間の授業の中で「一人一人を大切にしたい学び合い」の授業を毎学期行った教員が70%以上 1 単元を通して又は1時間の授業の中で「一人一人を大切にしたい学び合い」の授業を毎学期行った教員が70%未満	95%	4 アンケートで「できた」「分かった」と肯定的に答えた児童が90%以上 3 アンケートで「できた」「分かった」と肯定的に答えた児童が80%以上 2 アンケートで「できた」「分かった」と肯定的に答えた児童が70%以上 1 アンケートで「できた」「分かった」と肯定的に答えた児童が70%未満	児童の評価が昨年度より4%となった理由について確認したいとも思うが、全体的には教員の指導・取り組みは有効だと考える。	教員のアンケート結果が100%(昨年度比±0%)、児童は95%(昨年度比-4%)という、双方高い数値が得られる結果となった。これは授業において、教員が一人一人の学び合いを常に大切にしていることが分かり、それを児童に実践しているためだと考える。一方で児童のアンケートからは4%下がっていることから、OJTやお互いの授業を見合う取り組みを通して、教員の授業力を磨き、授業づくりに対する意識を一層高めていきたい。
	たくましい子供を育成するために、体を動かす楽しさを実感するとともに、健康な生活を実践する態度を育成する。	たくましい子供を育成するために、体育科及び食や健康保健に関する授業研究を推進するとともに、多様な運動や遊び等体を動かす機会を増やし運動の日常化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育科授業で運動量及び運動の質を確保した授業や、休み時間における学級外遊びを実践し、運動の日常化を図る。</li> <li>全校における体育的活動「平山アクティブスポーツ」を推進するとともに、地域とも連携した様々な体育的活動を推進する。</li> </ul>	100%	4 運動の日常化を図る取組(学級外遊び)や運動量・質を意識した体育科授業を毎月行った学級担任が100% 3 運動の日常化を図る取組(学級外遊び)や運動量・質を意識した体育科授業を毎月行った学級担任が85%以上 2 運動の日常化を図る取組(学級外遊び)や運動量・質を意識した体育科授業を毎月行った学級担任が70%以上 1 運動の日常化を図る取組(学級外遊び)や運動量・質を意識した体育科授業を毎月行った学級担任が70%未満	87%	4 アンケートで「体育の授業や休み時間などに体を動かすことは楽しい」と肯定的に答えた児童が90%以上 3 アンケートで「体育の授業や休み時間などに体を動かすことは楽しい」と肯定的に答えた児童が80%以上 2 アンケートで「体育の授業や休み時間などに体を動かすことは楽しい」と肯定的に答えた児童が70%以上 1 アンケートで「体育の授業や休み時間などに体を動かすことは楽しい」と肯定的に答えた児童が70%未満	運動会時の様子や、中学に上がった生徒が積極的に外で遊んでいる姿を見るに、「平山アクティブスポーツ」の取り組みは有効だと考える。が、まだまだ「体を動かすことは楽しい」と感じられない児童もいることから、この取り組みは継続してほしい。	教員のアンケート結果が100%、児童は87%という数値が見られた。昨年度の教員アンケート結果の71%から29%上昇し、児童は昨年度85%から2%上昇するという結果が見られた。この結果から、教員が運動の日常化を図る取り組み(学級外遊び)や運動量・質を意識した体育科授業を意識して行うことで児童が体を動かすことは楽しいと感じることが増えてくることが分かる。一方で、児童の数はまだ87%のため、児童がより楽しいと感じるようこれからも教員が常に「児童が主体的に考え、工夫できる環境づくり」や「楽しいを大切にできる運動遊び」を意識していく必要がある。
社会と未来に関き、みんなで作る	自分が生活する地域に愛着をもち、よりよい地域社会をつくらうとする態度を育成する。	農業・栽培体験を含む食育、防災教育の充実を通して、地域と共に「いのち」を学ぶ学習活動を推進するとともに、日野市に対する郷土愛や地元生産者への感謝の心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食献立や給食指導を通して、地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が100%</li> <li>給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が85%以上</li> <li>給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が70%以上</li> <li>給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が70%未満</li> </ul>	100%	4 給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が100% 3 給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が85%以上 2 給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が70%以上 1 給食献立や給食指導を通して地場産野菜を紹介し、そのよさを伝える学級担任が70%未満	95%	4 アンケートで「日野市で作られた食材が給食で食べられることはうれしい」と肯定的に答えた児童が90%以上 3 アンケートで「日野市で作られた食材が給食で食べられることはうれしい」と肯定的に答えた児童が80%以上 2 アンケートで「日野市で作られた食材が給食で食べられることはうれしい」と肯定的に答えた児童が70%以上 1 アンケートで「日野市で作られた食材が給食で食べられることはうれしい」と肯定的に答えた児童が70%未満	各学年、植物の栽培をする体験があり、また自校式給食により、農家の方とのふれあいや地産地消が実践されていること。栄養士と連携しての短時間動画の作成など、食育に対し出来る限りの努力を重ねていると感じる。これにより、児童が「いのち・食の大切さ」を十分に学べる時間としてほしい。	全体的な評価が高く、教職員が日々丁寧に食育指導を重ねたことが結果につながった。委員会活動では、5・6年児童が毎月の給食目標を動画にまとめることで、自身の食生活を振り返ることができた。次年度も給食時間に「日野産野菜-ロメモ」を紹介したり、生産者の作業風景をまとめた短時間動画を栄養士と連携しながら作成・配布したりし、100%を目指していく。また、生産者とのつながりの可視化できるようにする。農家の方からのメッセージ動画や顔写真の掲示等を通じ、作り手の想いを児童に直接届けることで食の大切さを児童一人一人に伝えていく。
	外部人材と関わる活動をおとし、地域や共生社会、将来に対する考えを深める。	様々な外部人材とふれあうことで自分の今後の在り方を考えたり、幼保小中連携教育を推進し、地域の園児や中学生と多様な関わりをしたりすることで、責任をもった行動する姿勢を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、関係機関やアスリート等を授業で招聘したり地域の方と関わったりする等、多様な人材が参画するような教育活動を展開する。</li> <li>第二幼稚園をはじめとする就学前施設や中学校と連携した取組を推進する。</li> </ul>	96%	4 地域を含む外部人材や給保中を含む外部機関と連携した教育活動を実施し、活動の意義や効果を共有した学級担任が100% 3 地域を含む外部人材や給保中を含む外部機関と連携した教育活動を実施し、活動の意義や効果を共有した学級担任が85%以上 2 地域を含む外部人材や給保中を含む外部機関と連携した教育活動を実施し、活動の意義や効果を共有した学級担任が70%以上 1 地域を含む外部人材や給保中を含む外部機関と連携した教育活動を実施し、活動の意義や効果を共有した学級担任が70%未満	88%	4 アンケートで「授業で地域や外部の方から学んだり、園児や中学生と関わったりする活動は自分の成長につながる」と肯定的に答えた児童が90%以上 3 アンケートで「授業で地域や外部の方から学んだり、園児や中学生と関わったりする活動は自分の成長につながる」と肯定的に答えた児童が80%以上 2 アンケートで「授業で地域や外部の方から学んだり、園児や中学生と関わったりする活動は自分の成長につながる」と肯定的に答えた児童が70%以上 1 アンケートで「授業で地域や外部の方から学んだり、園児や中学生と関わったりする活動は自分の成長につながる」と肯定的に答えた児童が70%未満	地域を含めた外部人材の登用は、事前準備等の多忙さに比べ、すぐには児童の意識に反映されていない。教員のやり遂げた達成感と児童との意識の隔たりはそのあたりにあるのではないだろうか。短・中期的に評価するより、長期的に評価できるように、今後も継続して取り組んでほしい。また、幼少中連携の評価として、児童が目下に対して優しく感じようとする成果を感じられる委員がいる反面、成果が実感しがたい、と感じる委員もいる。どの領域にたいしてもそうだが、年間を通して協議会内でもっと関わりを持てるような発信をお願いしたい。	今年度、体育科を中心に多くの外部人材、外部機関と連携し授業に取り組んできた。一つ一つの教育活動にねらいをもって取り組め、活動をやりっぱなしにせず、成果と意義を90%の教員が児童に伝えることができた。一方で、成長の時間を感した児童は88%となった。多様な関わりを児童の成長につなげることで、9割近い児童が成長の実感を感じることができたと考える。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。